別紙１

厚生労働科学研究費補助金

長寿科学政策研究事業

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究（20GA1002）

令和２年度～４年度　総合研究報告書

研究代表者　西村　行秀

令和5（2023）年　３月

別紙２

目　　次

Ⅰ．総合研究報告
介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究　----------　1
西村行秀
（資料）文献レビュー結果の結果
（資料）資料厚労科研報告2021
（資料）介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書

II．研究成果の刊行に関する一覧表　----------　10

別紙３

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
総合研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究代表者　西村　行秀　岩手医科大学リハビリテーション医学講座　教授

研究要旨　介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

（分担研究報告書の場合は、省略）

A．研究目的
本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B．研究方法
2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿い手引書の作成をおこなうこととした。手引書作成の執筆、編集、発刊をおこなうこととした。
（倫理面への配慮）
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C．研究結果
第１章は高齢者の身体機能を高める方法についてとし中項目を10項、小項目を36項目とし、第2章を高齢者の意欲を高める方法（心理的サポート）とし中項目を2項、小項目を6項とした。第3章は介護領域の高齢者における疾患別にみたリハビリテーションの留意事項についてとし、中項目を6項とした。また、それぞれの項を理解しやすくするための図表も多く取り入れた。最終的に100ページ弱の手引書を作成した。

D．考察
昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、最終年度である本年度に手引書の発刊まで到達し、予定を完遂することができた。

E．結論
介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F．健康危険情報
特になし
)

G．研究発表
1.　論文発表
Shinohara H, Mikami Y, Kuroda R, Asaeda M, Kawasaki T, Kouda K, Nishimura Y, Ohkawa H, Uenishi H, Shimokawa T, Mikami Y, Tajima F, Kubo T. Rehabilitation in the long-term care insurance domain: a scoping review. Health Econ Rev. 2022 Dec 1;12(1):59.

2.　学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者　西山　一成　岩手医科大学リハビリテーション医学講座　助教

研究要旨　介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

（分担研究報告書の場合は、省略）

A．研究目的
本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B．研究方法
2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿い手引書の作成をおこなうこととした。この中で中項目８項の執筆を担当することとなった。
（倫理面への配慮）
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C．研究結果
第１章、高齢者の身体機能を高める方法についての、バランス訓練、巧緻性訓練、高次脳機能障害に対するリハビリテーション手技の執筆を担当し、第3章、介護領域の高齢者における疾患別にみたリハビリテーションの留意事項についての、高齢者の全身状態を診るときのポイント、脳血管疾患患者に対する留意事項、運動器疾患患者に対する留意事項、循環器疾患患者に対する留意事項、呼吸器疾患患者に対する留意事項、サルコペニア・フレイルのある患者に対する留意事項の執筆を担当した。

D．考察
昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、担当部分の執筆を遂行することができた。

E．結論
介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F．健康危険情報
（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G．研究発表
1.　論文発表
なし
2.　学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者　久保　俊一　京都府立医科大学医学部　特任教授

研究要旨　介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

（分担研究報告書の場合は、省略）

A．研究目的
本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B．研究方法
2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿い手引書の作成をおこなうこととした。手引書作成の編集をおこなうこととした。
（倫理面への配慮）
京都府立医科大学の倫理審査の承認を得た。

C．研究結果
第１章は高齢者の身体機能を高める方法についてとし中項目を10項、小項目を36項目とし、第2章を高齢者の意欲を高める方法（心理的サポート）とし中項目を2項、小項目を6項とした。第3章は介護領域の高齢者における疾患別にみたリハビリテーションの留意事項についてとし、中項目を6項とした。また、それぞれの項を理解しやすくするための図表も多く取り入れた。最終的に100ページ弱の手引書をした編集した。

D．考察
昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、最終年度である本年度に手引書の発刊まで到達し、予定を完遂することができた。

E．結論
介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F．健康危険情報
特になし

G．研究発表
1.　論文発表
Shinohara H, Mikami Y, Kuroda R, Asaeda M, Kawasaki T, Kouda K, Nishimura Y, Ohkawa H, Uenishi H, Shimokawa T, Mikami Y, Tajima F, Kubo T. Rehabilitation in the long-term care insurance domain: a scoping review. Health Econ Rev. 2022 Dec 1;12(1):59.

2.　学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者　村上　英恵　岩手医科大学リハビリテーション医学講座　助教

研究要旨　介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

（分担研究報告書の場合は、省略）

A．研究目的
本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B．研究方法
2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿い手引書の作成をおこなうこととした。この中で中項目２項の執筆を担当することとなった。
（倫理面への配慮）
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C．研究結果
第１章、高齢者の身体機能を高める方法についての、関節可動域の拡大と摂食嚥下機能訓練の執筆を担当した。

D．考察
昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、担当部分の執筆を遂行することができた。

E．結論
介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F．健康危険情報
（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G．研究発表
1.　論文発表
なし
2.　学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者　高橋　史朗　岩手医科大学教養教育センター　教授

研究要旨　介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

（分担研究報告書の場合は、省略）

A．研究目的
本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B．研究方法
2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿い手引書の作成をおこなうこととした。手引書作成の編集をおこなうこととした。
（倫理面への配慮）
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C．研究結果
第１章は高齢者の身体機能を高める方法についてとし中項目を10項、小項目を36項目とし、第2章を高齢者の意欲を高める方法（心理的サポート）とし中項目を2項、小項目を6項とした。第3章は介護領域の高齢者における疾患別にみたリハビリテーションの留意事項についてとし、中項目を6項とした。また、それぞれの項を理解しやすくするための図表も多く取り入れた。最終的に100ページ弱の手引書をした編集した。

D．考察
昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、最終年度である本年度に手引書の発刊まで到達し、予定を完遂することができた。

E．結論
介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F．健康危険情報
特になし

G．研究発表
1.　論文発表
なし
2.　学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者　坪井　宏幸　岩手医科大学医学部　研究員

研究要旨　介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

（分担研究報告書の場合は、省略）

A．研究目的
本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B．研究方法
2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿い手引書の作成をおこなうこととした。この中で中項目４項の執筆を担当することとなった。
（倫理面への配慮）
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C．研究結果
第１章、高齢者の身体機能を高める方法についての、筋力増強、持久力（心肺機能）強化、歩行の執筆を担当し、第２章、高齢者の意欲を高める方法（心理的サポート）についての、入浴の執筆を担当した。

D．考察
昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、担当部分の執筆を遂行することができた。

E．結論
介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F．健康危険情報
（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G．研究発表
1.　論文発表
なし
2.　学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者　中嶋　英一　岩手医科大学医学部　研究員

研究要旨　介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

（分担研究報告書の場合は、省略）

A．研究目的
本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B．研究方法
2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿い手引書の作成をおこなうこととした。この中で中項目２項の執筆を担当することとなった。
（倫理面への配慮）
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C．研究結果
第１章、高齢者の身体機能を高める方法についての、離床の執筆を担当し、第２章、高齢者の意欲を高める方法（心理的サポート）についての、レクリエーションの執筆を担当した。

D．考察
昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、担当部分の執筆を遂行することができた。

E．結論
介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F．健康危険情報
（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G．研究発表
1.　論文発表
なし
2.　学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者　酒井　孝文　宝塚医療大学保健医療学部・教授

研究要旨　介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

（分担研究報告書の場合は、省略）

A．研究目的
本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B．研究方法
2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿い手引書の作成をおこなうこととした。この中で中項目２項の執筆を担当することとなった。
（倫理面への配慮）
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C．研究結果
第１章、高齢者の身体機能を高める方法についての、関節可動域の拡大、ADL（日常生活動作）訓練の執筆を担当した。

D．考察
昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、担当部分の執筆を遂行することができた。

E．結論
介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F．健康危険情報
（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G．研究発表
1.　論文発表
なし
2.　学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

別紙４

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年

（資料３）　　令和３年５月26日

令和２年度　厚生労働科学研究費補助金 長寿科学政策研究事業
「介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究（２０ＧＡ０２０１）」

文献レビュー研究結果

CQ：介護保険下でのリハビリテーションではどのようなエビデンスがあるのか

検索用語(日本語のみ記載)

Patient/ Participan/Problem ：20

医療保険 OR 介護保険 OR 通所リハ OR 訪問リハ OR 老人保健施設 OR 脳血管疾患 OR 心疾患 OR 関節疾患 OR 認知症 OR 骨折・転倒 OR COPD OR 誤嚥性肺炎 OR 廃用症候群 OR 生活期リハビリテーション OR 維持期リハビリテーション OR 疾患別リハビリテーション OR 回復期リハビリテーション OR 急性期リハビリテーション OR 失語症 OR 高次脳機能障害

Intervention ：23

理学療法 OR 作業療法 OR 言語聴覚療法 OR 運動療法 OR 物理療法 OR 有酸素運動 OR 筋力トレーニング OR 歩行 OR 基本動作 OR 関節可動域訓練 OR 生活行為向上マネジメント OR ADL OR IADL OR 社会参加 OR 余暇活動 OR 趣味 OR 地域活動 OR 認知トレーニング OR 高次脳機能訓練 OR 就労支援 OR 福祉用具 OR 自助具 OR 言語訓練

Outcome ：34

筋力 OR SPPB OR 握力 OR TUG OR 10m歩行速度 OR 6分間歩行距離 OR 関節可動域 OR 10 回立ち上がりテスト OR 膝伸展筋力 OR MMSE OR HDS-R OR “Vitality Index” OR SDS OR HADS OR FAB OR DASC OR “Barthel Index” OR FIM OR “Lawton IADL” OR “Frenchay Activites Index” OR “WHODAS 2.0” OR 介護負担 OR 要介護度 OR Zarit 介護負担尺度 OR QOL OR 医療費 OR 介護費 OR DBD スケール OR SLTA OR コース立方体 OR TMT OR RSST OR MWST OR 発話明瞭度

検索エンジン（カッコ内は検索ヒット数）

医中誌 (n=8,944)、CiNii (n=2,724)、Pubmed (n=3,402)、CINAHL (n=246)、CENTRAL (n=286)

一次スクリーニング（タイトルとアブストラクトによる選定）

包含基準：

・介護保険領域にてリハビリテーションを実施している施設（老人保健施設、デイケア、通所リハ）において介護保険内でのリハビリテーションに関するアウトカムがある

除外基準：

・訪看、介護医療院、特養（介護老人福祉施設）からのリハビリテーション（機能訓練）は除く（リハビリ特化型デイサービスも今回は除外）

理由：ねたきり、合併症予防、ターミナルケアに関するリハビリテーションを検討するのではなく、機能維持、機能改善に関してのリハビリテーションを検討するのが狙いのため

・嚥下障害、嚥下訓練は除く

二次スクリーニング（全文の評価による選定であるが、選定基準は基本的に一次スクリーニングと同様）

除外基準：

・介護保険ではない

・訪看、介護医療院などの対象外施設を含んでいる

・CQ に適していない、評価バッテリーの記載がない、もしくは結果が不十分

・ケースレポート、ケースシリーズである

・原著論文ではない（短報は包含）

・統計分析を実施した形跡がない

・重複論文である

選定結果

除外過程のフローチャートなどは以下の PRISMA フローチャートに示す。

和文 292 論文、英文 41 論文、計 333 論文が選定された。システマティックレビューは 1 論文（和 1、英 0）、RCT は 17 論文（和 13、英 4）、non-RCT は 26 論文（和 16、英 10）、コホート研究は 38 論文（和 31、英 7）、前後比較研究は 81 論文（和 77、英 4）、症例対照研究は 29 論文（和 29、英 0）、横断研究は 141 論文（和 125、英 16）であった。

システマティックレビュー論文は認知症に対する訪問リハに関するものであった（表 1）。RCT 論文は 17 論文中、約半数が運動療法に関連すると思われる内容であった（表 2）。

図 1　PRISMA フローチャート

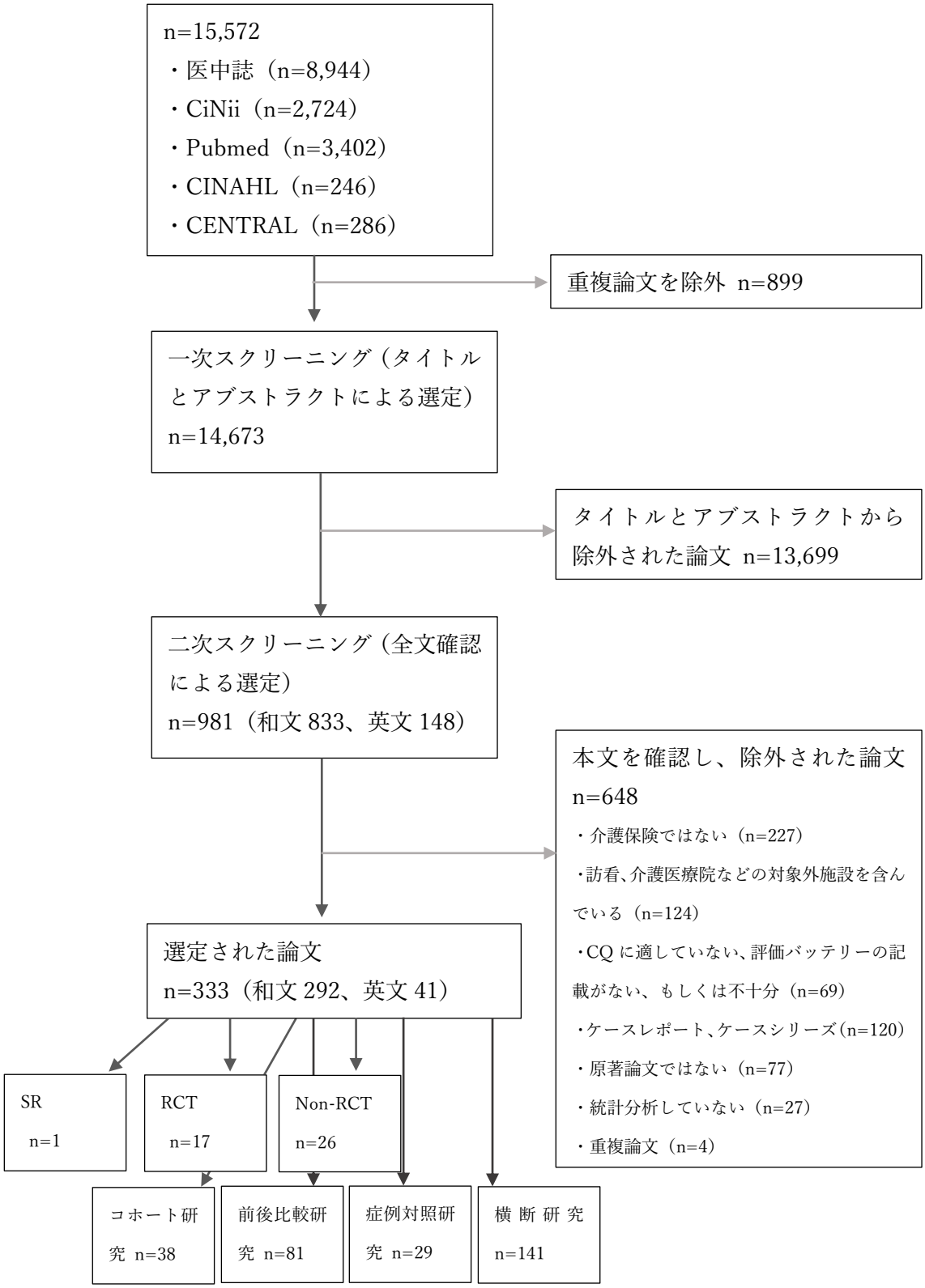


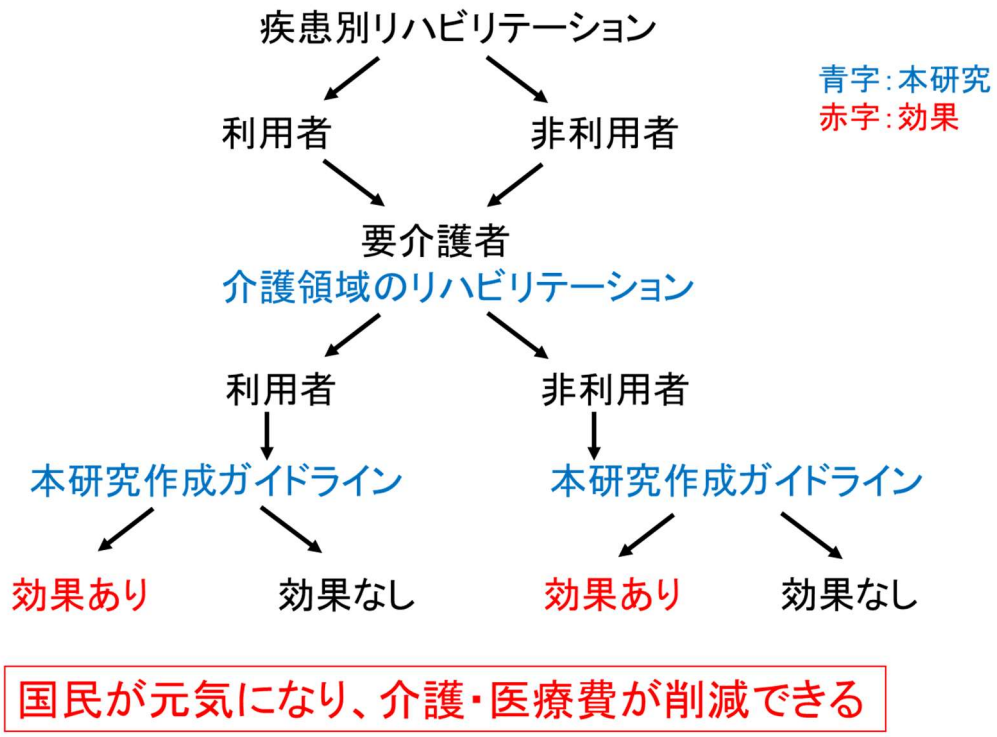
表１　システマティックレビュー：１論文

			タイトル	著者	ジャーナル
J	267	認知症患者に対する訪問リハに関するシステマティックレビュー（10件）	認知症者に対する訪問リハビリテーションの効果 最近10年の文献検討より	中前 智通(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部医療リハビリテーション学科作業療法学専攻), 大瀧 誠, 梶田 博之, 中島 綾, 森川 孝子	神戸学院総合リハビリテーション研究(1880-781X)9巻2号 Page41-48(2014.03)

表２　RCT 論文について：17 論文

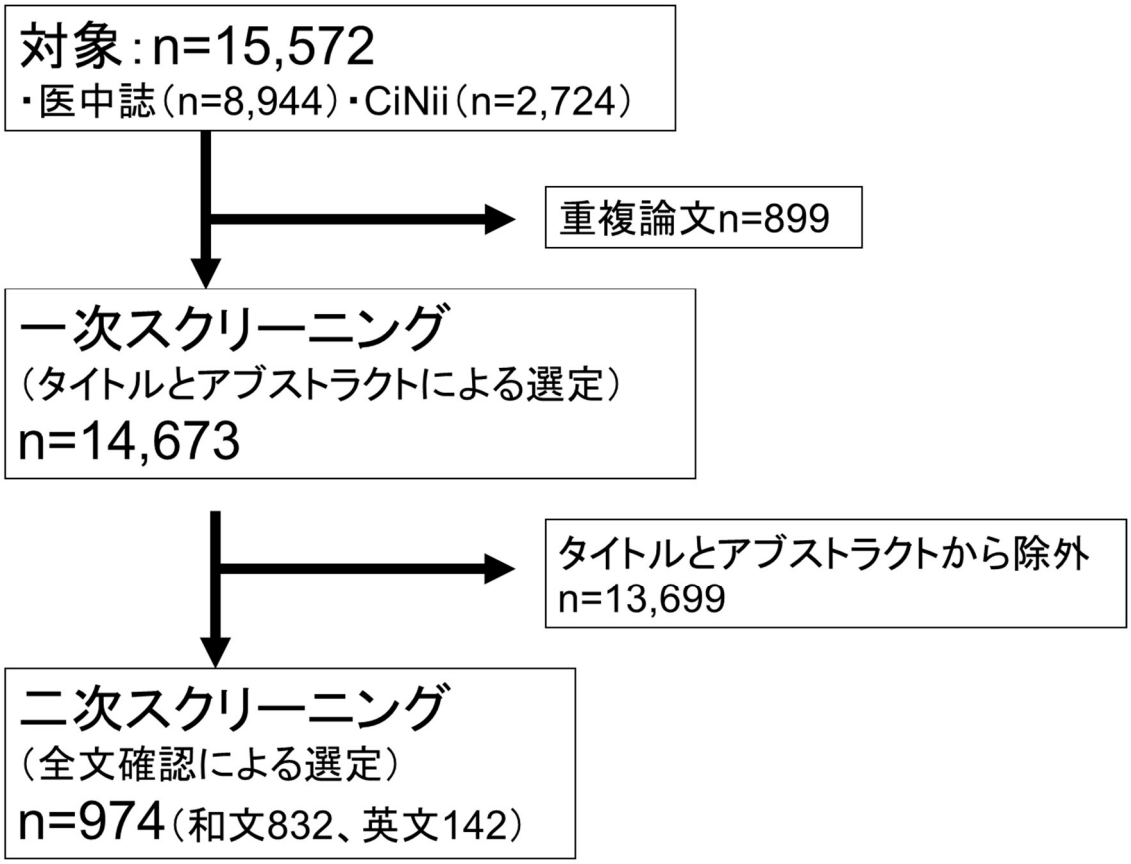
		特殊な介入の場合何をしたか	タイトル	著者	ジャーナル
J	116	ダンスセラピー	認知症高齢者に対するダンスセラピーの効果検討	石川 裕子(筑波大学 大学院人間総合科学研究ヒューマン・ケア科学専攻), 田中 美枝子, 武者 利光, 水上 勝義	日本認知症予防学会誌(2187-3798)3巻1号 Page2-12(2015.03)
J	162	二重課題バランストレーニング	Dual-taskバランストレーニングには転倒予防効果があるのか?　地域在住高齢者における検討	山田 実(坂田整形外科リハビリテーション), 上原 稔章, 浅井 剛, 前川 匡, 小嶋 麻悠子	理学療法ジャーナル(0915-0552)42巻5号 Page439-445(2008.05)
J	409	運動介入、栄養介入	介護老人保健施設入所者の転倒予防介入効果検証　準ランダム化比較試験	今岡 真和(大阪府立大学 大学院総合リハビリテーション学研究科), 樋口 由美, 藤堂 恵美子, 北川 智美, 上田 哲也, 増栄 あゆみ, 寺島 由美子, 甲斐沼 成, 黒崎 恭兵, 池内 まり	日本転倒予防学会誌(2188-5702)1巻3号 Page29-36(2015.03)
J	445	音読、歌唱	高齢者における音読と歌唱の効果　認知機能面に着目してランダム化比較試験	本田 景子(弘前大学 大学院保健学研究科総合リハビリテーション科学領域作業療法学分野), 石田 沙織, 田中 真, 澄川 幸志, 加藤 拓彦	作業療法(0289-4920)37巻6号 Page608-615(2018.12)
J	524	集団レク	集団レクリエーション介入が認知症高齢者における行動・心理症状(BPSD)およびQOLに及ぼす効果	坂本 将徳(介護老人保健施設古都の森 リハビリテーション部), 佐藤 三矢, 駒崎 卓代, 津田 隆史	理学療法科学(1341-1667)32巻4号 Page487-491(2017.08)
J	534	人間作業モデルOT	人間作業モデルとその他の理論を用いた群間の効果研究の内容　脳血管障害維持期の利用者に対するランダム化臨床試験	篠原 和也(介護老人保健施設回生の里), 山田 孝	作業行動研究(0919-5300)16巻1号 Page33-46(2012.06)
J	554	生活行為向上マネジメントを用いたOT	地域在住の要介護高齢者に対する「生活行為向上マネジメント」を用いた作業療法の効果　多施設共同ランダム化比較試験	能登 真一(新潟医療福祉大学 医療技術学部), 村井 千賀, 竹内 さをり, 岩瀬 義昭, 中村 春基	作業療法(0289-4920)33巻3号 Page259-269(2014.06)
J	581	OSAⅡを用いたプログラム	通所リハビリテーションにおけるOSAIIを用いた作業療法プログラムの効果	石代 敏拓(初台リハビリテーション病院), 小林 法一, 谷村 厚子	作業療法(0289-4920)36巻4号 Page405-415(2017.08)
J	609	生活行為向上プラン	通所リハビリテーション利用者の作業療法における生活行為申し送り表の効果　ランダム化比較試験による検討	大森 大輔(北川病院), 井村 亘, 両部 善紀, 狩長 弘親, 小林 隆司	作業療法(0289-4920)37巻2号 Page188-196(2018.04)
J	615	エロンゲーショントレーニング	通所リハ利用者に対するエロンゲーショントレーニングの効果についてのパイロットスタディ　理学療法群との比較検討	高橋 亮人(公仁会明石仁十病院 リハビリテーション科), 宮崎 純弥, 高橋 哲也, 徳永 仁美, 矢本 竣平, 岡田 菜奈, 坂元 亜衣, 幸田 仁志, 佐伯 武士	理学療法科学(1341-1667)32巻5号 Page721-727(2017.10)
J	724	パワーリハ	慢性期片麻痺患者の体幹機能に対するパワーリハビリテーションの効果	島貫 健太(いずみ会介護老人保健施設北星館), 湯浅 敦智, 斉藤 加奈子, 隈元 庸夫, 田邉 芳恵, 伊藤 俊一	北海道理学療法(0912-1455)24巻 Page90-94(2007.07)
J	737	フットケア、足部トレーニング	要介護高齢者の足把持力の向上を目指したフットケアの効果　ランダム化比較試験による検討	安田 直史(樋口医院通所リハビリテーションふれあいの里), 村田 伸	ヘルスプロモーション理学療法研究(2186-3741)4巻2号 Page55-63(2014.07)
J	747	集団リズム体操	要支援・軽度要介護高齢者に対する集団リズム運動が心身機能にもたらす効果	杉浦 令人(介護老人保健施設鳥羽豊和苑 リハビリテーション部), 櫻井 宏明, 和田 弘, 坂倉 照よ, 金田 嘉清	理学療法科学(1341-1667)25巻2号 Page257-264(2010.04)
E	2	90分/週の料理プログラム（調理練習）	Effects of a Cooking Program Based on Brain-activating Rehabilitation for Elderly Residents with Dementia in a Roken Facility: A Randomized Controlled Trial	Murai Tatsuhiko(Gunma University Graduate School of Health Sciences), Yamaguchi Haruyasu	Progress in Rehabilitation Medicine(2432-1354)2巻 Page1-9(2017.02)
I-	32	DVD視聴下でのdual taskトレーニング	Effects of a DVD-based seated dual-task stepping exercise on the fall risk factors among community-dwelling elderly adults	M. Yamada;T. Aoyama;Y. Hikita;M. Takamura;Y. Tanaka;Y. Kajiwara;K. Nagai;K. Uemura;S. Mori;B. Tanaka	Telemed J E Health
I-	66	マルチターゲットステッピング(MTS)	Multitarget stepping program in combination with a standardized multicomponent exercise program can prevent falls in community-dwelling older adults: a randomized, controlled trial	M. Yamada;T. Higuchi;S. Nishiguchi;K. Yoshimura;Y. Kajiwara;T. Aoyama	J Am Geriatr Soc
I-	95	コグニティブリハビリテーション	Comparison between group and personal rehabilitation for dementia in a geriatric health service facility: single-blinded randomized controlled study	S. Tanaka;S. Honda;H. Nakano;Y. Sato;K. Araya;H. Yamaguchi	Psychogeriatrics

添付資料１　本研究成功後のイメージ



国民が元気になり、介護・医療費が削減できる

添付資料２　システマチックレビュー



添付資料３　ガイドラインのためのクリニカルクエスチョン

（２０ＧＡ０２０１）介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

ガイドライン作成の目的

- 介護領域においてエビデンスに基づいた適切なリハビリテーション医療の方策を提供することにより、高齢者の介護度を下げることである。
- 介護領域におけるリハビリテーション専門職以外の職種も活用できるガイドラインを作成する。

第１章．高齢者における運動療法の有効性について

1-1. 関節可動域訓練は有効か？
1-1-1. 効果的な関節可動域訓練の方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？

1-2. 筋力増強訓練は有効か？
1-2-1. 効果的な筋力増強訓練の方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？
1-2-2. 効果的な自主訓練の方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？
1-2-3. その他の効果的な訓練は何か？

1-3. 歩行訓練は有効か？
1-3-1. 効果的な歩行訓練の方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？

1-4. 持久力（心肺機能）訓練は有効か？
1-4-1. 下肢エルゴメーターによる効果的な訓練方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？
1-4-2. 上肢エルゴメーターによる効果的な訓練方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？
1-4-3. トレッドミルを用いた効果的な訓練方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？
1-4-4. その他の効果的な持久力（心肺機能）訓練は何か？

1-5. 協調性訓練は有効か？
1-5-1. 効果的な協調性訓練の方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？

1-6. 巧緻性訓練は有効か？

1-6-1. 効果的な巧緻性訓練の方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？

1-7. バランス訓練は有効か？

1-7-1. 効果的なバランス訓練の方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？

1-8. 治療体操は有効か？

1-8-1. 効果的な治療体操の方法（強度・頻度・期間・運動様式）は何か？

1-9. 基本動作訓練は有効か？

1-9-1. 効果的な基本動作訓練の方法は何か？

1-10. ADL 訓練は有効か？

1-10-1. 効果的な ADL 訓練の方法は何か？

1-11 高次脳機能障害に対する訓練は有効か？

1-11-1. 効果的な注意障害に対する訓練の方法は何か？

1-11-2. 効果的な記憶障害に対する訓練は何か？

1-11-3. 効果的な失語症に対する訓練は何か？

1-12. 摂食嚥下訓練は有効か？

1-12-1 効果的な間接嚥下訓練の方法は何か？

1-12-2 効果的な直接嚥下訓練の方法は何か？

第 2 章. 高齢者における物理療法の有効性について

2-1. 温熱療法は有効か？

2-1-1. ホットパックは有効か？

2-1-2. 極超短波は有効か？

2-2. 寒冷療法は有効か？

2-2-1. アイスパックは有効か？

2-3. 電気刺激療法は有効か？

2-3-1. 低周波療法は有効か？

2-3-2. 機能的電気刺激は有効か？

2-3-3. 治療的電気刺激は有効か？

2-4. 水治療法は有効か？

2-4-1. 渦流浴は有効か？

2-5. その他

2-5-1. 体外衝動波は有効か？

2-5-2. 全身振動刺激は有効か？

2-5-3. 超音波は有効か？

2-5-4. 圧迫は有効か？

第 3 章．介護領域の高齢者における疾患別にみたリハビリテーションの留意事項について

3-1. 脳血管疾患患者に対する留意事項は何か？

3-2. 運動器疾患患者に対する留意事項は何か？

3-3. 循環器疾患患者に対する留意事項は何か？

3-4. 呼吸器疾患患者に対する留意事項は何か？

3-5. 低栄養、サルコペニア・フレイルのある患者に対する留意事項は何か？